

鈴鹿市小中学校空調設備視察報告

令和元年7月19日

名張市議会

白のクラブ 山下 登

視察日 令和元年7月5日

視察目的 小中学校空調設備導入実績視察

名張市は市立小中学校の空調設備設置計画を推進しており、30年度に桔梗中を除く4中学校と錦生・赤目小学校の設置を完了し、31年度に残りの13小学校と新設予定の桔梗が丘中学校の設置が6月議会で可決された。

鈴鹿市は人口が20万人で名張市の2.5倍であるが小学校数30校、中学校数10校と名張市の2倍であり、参考に適しているため、鈴鹿市を視察した。鈴鹿市議会事務局の案内で、モデル校となっている鈴鹿市立稲生小学校における現場視察と鈴鹿市教育委員会担当者から、設置計画～設置完了に至るまでの経過、設置効果等について説明を受けた。

当初文部科学省の「学校施設環境改善交付金事業」による事業を計画していたが、環境省によって創設された「公共施設等先進的CO2排出削減対策モデル事業」による事業を採択した。

教室数 875室 設置台数1,128台

総工費 3,232,300千円

市負担額 1,406,100千円

各教室へ導入するエアコンの能力は業務用エアコン5HP（5馬力）天井吊り型。

鈴鹿市小中学校空調設備設置に至るまでの経過

- 1、コンサルタント会社に基本設計を依頼。
- 2、専門家を交えた選定委員会で選定基準等を決定。
財政負担の平準化のために10年間のリース式とする。
- 3、選定検討委員会の基本情報によって公募型プロポーザル方式で業者を選定。
○定められた期間内に参加表明書を提出し、必要条件を満たすことが確



認された者から「事業提案書」の提出を求め、ヒアリング形式による審査によって、優先候補者と次点者を選定。

- 4、三菱 UFJ リースが受注、ダイキンが責任施工業者となった。
短期間で大量の設備設置のために、地元業者以外に全国から施工業者を動員して完成した。

名張市が見習うべき点

- 1、専門家を交えた「選定委員会の設置」である。
コンサルタントの基本設計を選定委員会が検討審査して、鈴鹿市の責任を明確にしている。
- 2、空調機メーカーに責任施工の一括発注している。
土木・建築工事は工事が主体であるが、エアコン設置はエアコンが設備が主体で、設置工事は従である。だから、エアコンはメーカー直説かメッカード直結の一次特約店を対象に入札すべきである。その上で、設置工事は市内業者優先とすべきである。
又は、設備を一括購入する入札と設置業者の入札を別々に行うべきである。
- 3、名張市は6馬力を予定しているが、鈴鹿市は業務用5馬力エアコンで十分と言っている。(エアコンメーカーの説明をうけるべきと思う)

鈴鹿市稲生小学校空調設備

令和元年7月5日



5馬力室内機と室内配管



室外機/室外機は1/1



室外機と4階までの配管



屋上設置太陽光発電装置